京都のINGをCHECK IT OUT!!

口コミ情報カタログ

編集長の今月の裏言葉語 A.Y.

エーワイ。広義は関西弁だが、われわれ京都人にとっては灰を まくる時の常套句である。意は「ー」でもいいこと、またはこ なってもよいことだが、近頃ではメール表示にも使用なアルファベットである。この町を中心に活躍したウエストロード・ブルース・バンドのボーカル、ホトケ氏京都会館での解散コンサートで連呼した名フレーズでもある。ややスネた感で使用することもある。キューブリックの脚本をスピルバーグが遺解釈の映画化！ 彼が本来大好きだったはずのピノキオをオマージュせず、ひたすら重く、とりあえず厭かった「A・I」とは何ら関係のない言葉！

恋の場外乱闘

30歳を目前に、どんなオキテやぶりを使ってもカレシを作る！と誓ったライターの私だが…。

恋の求道者としてはやっぱ見逃せないでしょう、出会い系サイトって。体当たりルポっす。

私がエントリーしたのは、「ご近所さんを探せ！」「あっちゃんのラブラブお見合い」というサイト。どちらも身元がバレないシステムで危険なフェロモンはなかったけど、いやぁでもエキセントリックな体験でしたわよ。

恋のIT革命 後編

エントリー後、私に届いた初メールは40代男性、ハンドルネーム「御殿様」。ブーッ！なんか亭主関白そうだなぁ。だが予想に反し「返事がなくても構いませんから…」という謙虚な姿勢が気に入って「御殿様だけにお仕事は高級官僚ですか？」とボケたらなんとレスなし！

その後続々とメールが届く。一日５件くらいはザラだった。もちろん異性ばかり。「バーチャル世界では、ワタクシ、モテモテ♪」メル友＝ヤバいの方程式が見え隠れするご時世だが女性諸君、ちょいと女王様気分もアリだぞ、コレは。

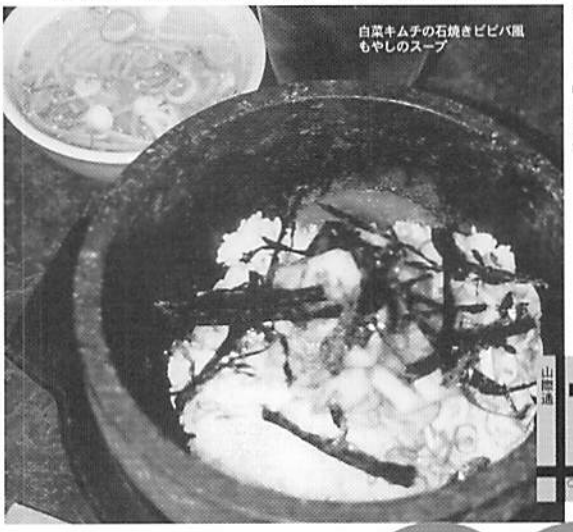
最初は律儀に来たメール全てに返事を書いてたが、だんだん目も肥えてくる。マスメールでドコの女にも同じ文面を送ってそうなヤツ、すぐに逢いたがるヤツも即、排除。結局私のメル友は２人にしぼられた。その一人、Mさんと逢うことに。初めて逢ったMさんは、↓

里見浩太朗ばりに目力があり、ガッチリして男気溢れる人だった。やたら私を「バドミントンの陣内貴美子に似てる！」と言ってたが、いやしかし、ビル・ゲイツと出会いサイトがこの世に存在しなければ、私達は出会うことはなかったのだ。同じ市内に住んでいながら、全く接点のない二人をこうしてひき合せたもの。それをきっと人は運命と呼ぶのね…。きゃー

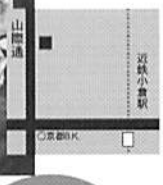
仕事の汗も乾かぬうちにアツアツ、ピリリッのソウルフードでもう一汗

うちのまかない

店の外に漏れる匂いを嗅いだだけでも、つい食べたくなるのが焼きモノのマジック。肉や油の焼ける香ばし～い香りが充満しているウチの店で働いていたら、その欲求は常に飽和状態。と言うわけで、ウチのまかないの殆どは、美味いとこ、イイとこ採りのモジュラー方式を採用。今日は石焼ビビンバの美味さの要、石鍋の他、二度来る辛さで食欲増進、白菜キムチがそのメイン。ウチで働き始めると、なぜかみんな辛さに強くなるようで、かく言うワタシもキムチやコチュジャンなど刺激モノが日に日に増加、今日も一山築いた次第。そこに、ナムル用のもやしのゆで汁で作ったスープをじゅわ～っとかけて、後は一気に掻き込むだけ。けど、このメニュー、石鍋はしっかり焼きの入ったモノをお客さんに提供すべしという使命にも、実は絡んでいるのデス。


白菜キムチの石焼きビビバ風もやしのスープ

本日のまかない師は、調理もホールもこなす船川知瀬さん。ホルモンをコチュジャン、辛子、にんにくで煮込んだホルモンポッカもお得意メニュー



●海雲亭 かいうんてい
宇治市小倉町神楽田3－6
☎0774・20・6442
営11:30～14:00　17:00～翌3:00／無休

Cafe 椅子図鑑

CAFE rumble FISH
カフェ ランブル フィッシュ

京都市中京区小川通御池下ル京町家鹿内
☎075・212・4424
営11:00～23:00／水休

店に置くツールの殆どは、柳宗理などビックネームからインディーズまでのデザイナーもの。今後も新たなプロダクツが増える予定で、イスとのコンビネーションも楽しみ

一寸下げた目線の先に生まれる町家モダンの時間

築70年、大きな町家の一室を利用したカフェ・ランブルフィッシュ。既存の文化と西洋の文化が溶け合った、大正初期の日本をイメージした店内を、しっとり静謐な佇まいに仕立てているのが今月の主役。「efish」を始めそのご活躍は本誌でも紹介済み、西堀壱氏のコドモのひとつだ。座面は鉄紺色のファブリック、脚は店の床や壁と同じく鳶色の木製。フォルムは背から脚先まで、直線の完結が印象的。どっしりと低い重心は、日本人の体型と、天井の高さや間取りの広さが大きいとは言い難い町家建築を考えてのこと。同系列のバー・ベタコッキーナにも設けられたこのイス、以前からあったソファ席の利用率を上回ったと聞けばその座り心地は言うまでもないはず。

N'EST-CE PAS?

パリが教えてくれた日常の喜び京都でリプレイしたくって

「N'EST-CE PA?」とはフランス語で「～ですよね？」のニュアンス。響きで選んだものの、結構しっくり！

三ヶ月ごとに発行の季刊誌
●問い合わせ先
ネスパウエスト　anncc@mbox.kyoto-inet.or.jp
●配付先
朝日会館　関西日仏学館　Sa・ka・mi　ジュンク堂書店京都店　テテ・ア・テテ　巴里本舗　B.C.P　みなみ会館　メゾン・ドゥ・イッチール・プチ・メック　etc.

Kyoto Minima Magazine

創刊は今から遡ること6年前。パリでの1カ月の語学研修中に出会った京都で暮らすパリ通・立原さんとこれまたパリに恋する東京在住の加川さん。二人のパリ談義に花が咲き乱れた結果、誕生したのがこのネスパ。東京と京都で交互に担当する特集では、「フランスの休日」「日本パリ地図」などなど、在日フランス人お墨付きのフランス情報を紹介。残りのページを折半して東西のフランスにまつわるイベント、シネマ情報、コラムを掲載。パリで感じた新鮮な日常を京都の日常に見いだしたい！ネスパを続ける原動力はそんなトコから生まれているのだ。

平日は会社員、週末はネスパウエスト編集長の多忙な立原さん。紙上で募集し、集まったスタッフたちとパリ話する時間は貴重かつ楽しい。東京担当は2代目の安藤さんに